

## ヘブル人への手紙 3章 7-19節 イエスは、はるかにすぐれた神の民を形づくられる

聖書のヘブル人への手紙 3章 7節から 19節までを開いてください。先週の日曜日のことを覚えていらっしゃるでしょうか。ヘブル人への手紙 3章は、イエス様が家を建てているという説明から始まります。その家とは、アブラハムの子孫から始まった神の民のことです。これはヘブル人への手紙 2章 16節でも見てきたように、キリストに従う者たちが**アブラハムの子孫**と呼ばれています。

次の2回の説教では、この**神の民**に焦点を当てていきます。今日の最初の説教では、イエス様がより優れた民を造り出されるという事実に焦点を当てています。ユダヤ人であったほうが良かったのではないか、と思いたくなるかもしれません。彼らと神とを結びつけてきた長い歴史を考えてみてください。彼らはモーセを通じて十戒を授けられました。また、過越の祭りやその他の祭りが与えられ、それらは彼らを神の民として聖別し、アブラハムの子孫であるイエス様を通して世界に救いをもたらされる道を指し示していたのです。

今日でも、ユダヤ教の慣習とイエス様をメシアとする信仰を融合させていることから、メシアニック・ユダヤ教をキリスト教より優れた形態と見なすクリスチャンがいます。しかし、ヘブル人への手紙の筆者は、ユダヤ人としての民族的アイデンティティを持つことよりも、イエス・キリストの血によって神と結びついた神の民となることが、より優れていると述べています。神の民となることこそが、神との関係に対する確信と証拠を与え、私たちがアブラハムの子孫の一人であることを示すのです。この箇所は、私たちが神の民であることを示す3つの重要な特徴を教えています。まず第一に、神の民は柔和な心を持っているという点です。ヘブル人への手紙第3章 7節から 11節を読み始めると、このことがわかります。 **ですから、聖霊が言われるとおります。『今日、もし御声を聞かなら、 8 あなたがたの心を頑なにしてはならない。荒野での試みの日に 神に逆らったときのように。 9 あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、わたしを試し、四十年の間、わたしのわざを見た。 10 だから、わたしはその世代に憤って言った。『彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない。』 11 わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れぬ。』』**

さて、7節は、6節の**そして、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けさえすれば、 そうなのです。**という言葉で締めくくられている6節と、明らかに結びついています。

私たちが神の家、すなわち神の民の一員であることを示すのは、イエス・キリストへの信仰です。しかしここで、ヘブル人への手紙の筆者は詩篇 95篇を引用し、これらのクリスチャンたちに、神の教えに対して柔和な心を保つよう励ましています。柔和な心という概念には、従順さが含まれています。これは18節で、不信仰が不従順と呼ばれていることから、明確になります。筆者は、これらのヘブル人クリスチャンたちがよく知っていた民族の歴史に再び立ち返り、神の民においてそれがどのような姿をとるかについて、否定的な例を挙げています。彼は詩篇 95篇 7節から 11節を引用しています。詩篇 95篇のこの箇所は、ヘブル人への手紙で読んだ箇所と非常によく似ていますが、ヘブル人への手紙の引用部分につながる7節の冒頭で、詩人は次のように述べています。 **まことに主は私たちの神。 私たちは その牧場の民 その御手の羊。**どちらの状況においても、神は御自身の民に語りかけておられます。神は民と交わり、彼らや私たちを御導きなしに放置されることはありません。しかし、その御導きにどう応えるかによって、私たちが真に神の民であるかが示されます。真の神の民は、神に反抗して心を頑なにすることはなく、むしろ神の御声に従います。そう言うのは、イスラエルの民という否定的な例において、民族的には神の民であったが、真の意味ではそうではなかった者たちが**彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない、**と記述されているからです。以前にも触れたように、私が出エジプト記を読み終えた後にヘブル人への手紙に進むことにした理由の一つは、ヘブル人への手紙がイエス様との比較において出エジプト記と多くの共通点を持っているからです。ここに、もう一つの例があります。詩編の作者もヘブル人への手紙の筆者も、イスラエルの民が神に背いた荒野の放浪の時代を振り返っています。彼らは毎日、神に直接導かれて荒野を旅していました。毎朝、天から降る新鮮なマナを糧として与えられていました。彼らは、モーセがシナイ山で神の御前に進み、彼らのために神から直接授かった律法を持ち帰るのを目撃していました。そし

て、約束の地の入り口に立ち、その地が実らせるであろう実を目の当たりにしていたのです。神についてあれほど多くのことを知っていながら、彼らは反逆し、その地に入ることを拒んだため、神は彼らを罰せられました。多くの点において、彼らの行動は実際には従順なものでした。彼らはマナを食べ、モーセに従いました。ユダヤ人以外の諸国から見れば、彼らはまさに神の民でした。しかし、人は行動しか見ませんが神は心を見られます。サムエル記上 16 章 7 節で、神が預言者サムエルに語られたように **サムエル記 第一 16 章 7 節 主はサムエルに言われた。「彼の容貌や背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」** 真に神に御心にかなう従順は、清い心から生まれるものです。エゼキエル書 36 章 26 節は、新しい心、すなわち清い心は、神の御業によってのみ与えられることを明らかにしています **エゼキエル書 36 章 26 節 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。** また、コリントの信徒への手紙二 5 章 17 節は、この新しい心が全く新しい人生の一部であることを教えています **コリント人への手紙 第二 5 章 17 節ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。** この柔和な心、この新しい心、この従順な心は、イエス・キリストを通してのみ与えられるものです。私たちが神の民とするのは、民族的な出自ではなく、イエス・キリストへの信仰を通した神との関係なのです。キリストへのその信仰が、新しい心をもたらすのです。しかし、ヘブル人への手紙はすでに、イエス様において私たちはイエス様を兄弟とする新しい家族の一員であるという真理を私たちに示しています。ですから、イエス・キリストを通して与えられる新しい心は、他の人々と共に生きるためにあるのです。モーセはイスラエル人の中でただ一人ではありませんでした。イスラエルの民全体が神の民だったのです。明らかに、それは多様な人々から成る集団でした。中には真の神の民もいましたが、他の多くの人々は単に民族的にイスラエル人であるに過ぎませんでした。ある意味では、今日の教会も同様なのです。私たちの目標は、目に見える教会が、真の教会、すなわち真の神の民を、可能な限り反映させることであるべきです。ですから、私たちは、その人たちの明確な信仰の証しを聞き、洗礼における公の信仰告白を目にします。また、教会としての規律を実践し、その人の生活が、信仰を公言する言葉の証拠を示していないと、教会として公に宣言するのです。それが悔い改めのない継続的な罪であれ、あるいは長期間にわたり教会から離れているために信仰の証拠を確認できない場合であれ、私たちは YIBC の会員が真の神の民であることを明確に証ししようと努めます。しかし、それは同時に、神の民であることの第二の核心的な特徴が、私たちが共に信仰を堅持することにあることを意味します。それが 12 節から 15 節に見られることです。 **兄弟たち。あなたがたのうちに、不信仰な悪い心になって、生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。 13 「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい。 14 私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、です。 15 「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。神に逆らったときのように」と言われているとおりです。** どうすれば心を清く保ち、信仰を強くすることができるでしょうか？ みんなで一緒に頑張るのです！ **「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、** 教会によって今やその正体が明らかにされた神の民の生活とは、共同体の中で生きることを意図されたものです。この生活には、落胆もつきものです。神が働いておられること、あるいは神がすべてを支配しておられることを信じられなくなるような誘惑も訪れるでしょう。しかし、毎週集まるたびに、私たちは一人ひとりに与えられた御霊の賜物を用いて、愛をもって互いに仕え合うために集まるのです。私たちは、たとえ前の週の道のりがどれほど困難であったとしても、決して諦めず、歩み続けるよう互いに励まし、互いを奮い立たせるために、こうして集まっているのです。筆者は、罪は私たちを欺くものであると指摘しています。罪は、誘惑に負けて、目立たないように他の人たちと同じことをすれば、人生はもっと楽になるのだと、私たちに錯覚させることがあります。結局のところ、サタンは、神が自ら語っているようなお方ではないと私たちに信じ込ませることで、私たちを罪へと誘おうとしているのです。サタンはまず、創世記 3 章 1 節から 4 節にある問いかけによって、エバを欺きました。 **創世記 3 章 1-4 節 さて蛇は、神である主が造**

られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」2女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。3しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ』と神は仰せられました。」4すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。私たちがキリストの体とつながり続けるほど、サタンが私たちを欺くことは難しくなります。毎週集まり、御言葉の朗読、御言葉による祈り、御言葉の賛美、そして神の御言葉の説教を通して心を新たにするとき、私たちの生活はますます神の御言葉で満たされていきます。そして、その御言葉を理解し、従うほど、御言葉は私たちを罪から守ってくれます。しかし、神の御言葉を私たちの生活に適用することさえも、共同体の中でなされるべきものです。エペソ人への手紙5章19節には、私たちが神の御言葉を歌うことは、神に対してだけでなく、互いに対してもなされるものであると記されています。エペソ人への手紙5章19節 詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。なぜ、キリストの体である教会への関わりは、これほど重要なのでしょうか。それは、14節にあるように**私たちはキリストにあずかる者となっているのです**。私たちはキリストの中にあり、聖霊を通してキリストも私たちの中にいます。そして、私たちは互いに信仰を強め合い、歩み続け、キリストへの信仰から離れることがないようにしています。しかし、ここで別の重要な点が浮かび上がります。私たちは、**生ける神から離れる者**となってしまうことがあるのでしょうか。この箇所や類似の箇所を根拠に、救いを失うことがあると教える人々もいます。しかし、私たちはこれを、その前後の文脈と合わせて捉えなければなりません。この神から離れる背きは、不信仰な心から生じるものです。不信仰な悪い心、つまり真の信仰の欠如です。ヘブル人への手紙だけでなく、聖書全体を通して、私たちがキリスト、ひいては神と結びつけるものは信仰であることは明らかです。14節をもう一度見てください。**14 私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、です**。私たちがキリストと結びつけるのは、まさにそのキリストへの確信、あるいは信仰なのです。しかし、真の信仰の証は、自分が下したと思い込んでいる、信じるという決断、ではなく、キリストの共同体への関わりにあるのです。先ほど述べたことに立ち返れば、これこそが、私たちが、真にキリストと共に歩んでいる人々だけが地域教会の会員となるよう、細心の注意を払おうとする理由です。教会は本質的に、世に対してこの人たちはクリスチャンですと告げているのです。教会が誰かを教会から除名するとき、私たちは、その人がキリストに属しているという主張を取り下げるのです。結局のところ、私たちは人の心や信仰の真偽を知ることはできませんが、その証拠を見ることができません。その証拠の一つが、教会への参加です。ですから、ヨハネの手紙一は、教会を拒絶するという形で信仰を拒む者は、そもそも真の信仰を持っていなかったことを示していると述べています。ヨハネの手紙第一2章19節 **彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし仲間であったなら、私たちのもとに、とどまっていたでしょう。しかし、出て行ったのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためだったのです**。しかし、私たちは、不信仰から心を守るよう注意を払わなければならないという葛藤が存在することを認めなければなりません。私たちの救いとキリストにおける立場は、救いにおける神の主権によって保証され、教会によって確認されています。しかし、15節では詩篇95篇7~8節を引用して、次のように改めて告げられています。**今日、もし御声を聞かなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない**。一度救われたら、永遠に救われたままであるからといって、救われた自分は好き勝手に振る舞えるというわけではありません。それは、信仰によって真にキリストのものとなった者たちを、キリストが決して見捨てないことを知りつつ、信仰を貫き通すために、私たちにはキリストと互いが必要であることを認めることです。イエス様がヨハネによる福音書6章37節で言われているように、**ヨハネの福音書6章37節 父がわたしに与えてくださる者はみな、わたしのもとに来ます。そして、わたしのもとに来る者を、わたしは決して外に追い出したりはしません**。なんと驚くべき真理でしょう。今日の聖句はここで終わり、来週の聖句は私たちがその場所へと導いてくれます。神の民であることの最後の核心的な特徴は、安息、すなわちキリストにある永遠の、そして今この瞬間の安息です。この話を締めくくるために、ヘブル

人への手紙第3章 16～19節を読みましょう。16では、聞いていながら反抗したのは、だれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た、すべての者たちではありませんか。17神が四十年の間、憤っておられたのは、だれに対してですか。罪を犯して、荒野に屍をさらした者たちに対してではありませんか。18また、神がご自分の安息に入らせないと誓われたのは、だれに対してですか。ほかでもない、従わなかった者たちに対してではありませんか。19このように、彼らが安息に入れなかったのは、不信仰のためであったことが分かります。再び、荒野で反逆したイスラエルの民の例を挙げると、信仰の欠如、不信仰、そして不従順の間のつながりがわかります。来週は安息という概念についてさらに詳しく見ていきますが、今のところ、神の民にとって、神が導いておられる安息があるということを理解する必要があります。イスラエルの民にとって、それは乳と蜜の流れると形容される、物理的な約束の地でした。そこは、イスラエルが神に栄光を帰し、神の祝福を体験しながら、神を礼拝するための恒久的な場所となるはずでした。これは、私たちがイエス・キリストの中に見出す安息を象徴しています。もちろん、この約束された安息には、天における究極の安息を指し示す未来的な側面が確かにあります。しかし、イエス様の中に私たちが体験できる、現在の安息、すなわち平安があることも明らかです。来週取り上げる箇所には、ヘブル人への手紙4章3節が含まれており、**信じた私たちは安息に入るのですが**と記されています。これは現在形であり、単なる未来への希望ではありません。それは現在の希望であり、それゆえに現在の安らぎなのです。絶え間ない不安の状態は、神がクリスチャンに望まれる生き方ではありません。もちろん、多くの人がそうした感情や心情に苦しんでいます。しかし、キリストに従う者たちには真の安らぎがあります。もちろん、私たちの人生にはストレスや不安を引き起こすような出来事に直面することもあります。しかし、キリストと共にあれば、私たちは**人知をはるかに超える平安**をもって、キリストに完全に安らぐことができるのです。ですから**ピリピ人への手紙4章7節** **そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。**とあります。しかし、ヘブル人への手紙で繰り返し示されているように、神の民となり、イエス様が造り出されるより良い民となるための鍵は、イエス・キリストご自身にあります。イエス・キリストへの信仰がなければ、清い心はあり得ません。イエス・キリストへの信仰がなければ、教会に通うことはできません。教会、すなわちキリストの体の一部となることはできません。そして、イエス・キリストへの信仰がなければ、あなたは決してその安息に入ることはできません。19節が明らかにしているように、信仰の欠如ゆえに、その安息、教会、そして清い心は、あなたにとって閉ざされたままなのです。19節はこう言っています。私たちは誰を信じ、誰を信頼するように召されているのでしょうか？イエス・キリストです！神は、私たちが、**キリストにあずかる者**になるよう望んでおられます。それは信仰によって行われるものであり、14節の結びにも明確に示されています。**もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、**です。問題は、私たちが罪の中であって、神に背き続けていることです。私は神に背いてなんかないと言うかもしれませんが。しかし、18節と19節を合わせて読むと明らかになるように、不信仰とは不従順のことなのです。**18また、神がご自分の安息に入らせないと誓われたのは、だれに対してですか。ほかでもない、従わなかった者たちに対してではありませんか。19このように、彼らが安息に入れなかったのは、不信仰のためであったことが分かります。**不信仰とは不従順のことです。イエス様を拒み続けるほど、あなたは神への不従順の状態に留まり、神の家族や民から遠ざかってしまうのです。イエス様を知っている人々にとって、この御言葉は教会への忠実さを保つよう励ましています。しかし、自分の罪を悔い改めず、イエス様を信じることで福音に従っていない人々にとって、そのメッセージは明確です。キリストに立ち返りなさい。自分の罪を悔い改め、イエス様があなたの罪のために死なれたことを信じなさい。祈りましょう。

## Hebrews 3:7-19 Jesus creates a better people イエスは、はるかにすぐれた神の民を形づくられる

Turn with me in your Bibles to Hebrews 3:7-19. If you remember from last Sunday, Hebrews 3 begins with an explanation that Jesus is building a house. That house is the people of God, that began with the people of Abraham. We saw that back in [Hebrews 2, verse 16](#), where those who follow Christ are called the “[offspring of Abraham...](#)” The next two sermons are going to focus on these people of God. **This first sermon today is focusing on the fact that Jesus creates a better people.** It may be tempting to think that it would have been better to be Jewish. Think about all the history that connected them with God. They were entrusted through Moses with the Ten Commandments. They were given the passover and other feasts that set them apart as the people of God and pointed to the way that salvation would be offered to the world through Jesus, Abraham’s descendent. Even today, there are Christians who would look to Messianic Judaism as a better form of Christianity because it combines Jewish practice with belief in Jesus as the Messiah. But the writer of Hebrews is saying that to be the people of God, related to him through the blood of Jesus Christ is better than to have a Jewish ethnic identity. It is being the people of God that provides the assurance and proof of our relationship with God and our identification as one of the offspring of Abraham.

This passage gives us 3 core identifying marks that we are the people of God. The first mark we see is that **God’s people are marked by a soft heart.** We see this as we begin reading verses 7-11 of Hebrews 3. **Therefore, as the Holy Spirit says, “Today, if you hear his voice, 8 do not harden your hearts as in the rebellion, on the day of testing in the wilderness, 9 where your fathers put me to the test and saw my works for forty years. 10 Therefore I was provoked with that generation, and said, ‘They always go astray in their heart; they have not known my ways.’ 11 As I swore in my wrath, ‘They shall not enter my rest.’”** Now, verse 7 clearly connects back to verse 6 which ends by saying, **“And we are his house, if indeed we hold fast our confidence and our boasting in our hope.”** It is our faith in Jesus Christ that shows that we are part of the house of God, which is the people of God. But now quoting from Psalm 95, the writer of Hebrews is encouraging these Christians to keep a soft heart to God’s instruction. The idea of a soft heart implies obedience. This will be explicitly clear in verse 18 where unbelief is called disobedience. The writer gives a negative example of what this looks like in God’s people by going back once again to their ethnic history, that these Hebrew Christians were well aware of. He quotes from [Psalm 95:7-11](#). The passage in Psalm 95 reads very much like what we read here in Hebrews, but the way the Psalmist begins verse 7 that goes into the quote in Hebrews is with these words, **For he is our God, and we are the people of his pasture, and the sheep of his hand.** In both contexts, God is speaking to his people. God communicates with his people and does not leave them or us without his guidance. But how we respond to that guidance shows whether we are truly the people of God. The real people of God do not harden their hearts in rebellion against God, instead they obey the voice of God. I say that because in the negative example of the people of Israel, those who were ethnically but not truly part of the people of God were described as going... **“astray in their heart; they have not known my ways.”**

As I’ve mentioned before, one of the reasons I chose to move to Hebrews after going through Exodus is the many connections Hebrews has to Exodus in the comparisons to Jesus that are made. Here is another one. Both the Psalmist and the writer of Hebrews are both going back to the wilderness wanderings when the people of Israel rebelled

against God. They were being directly led through the wilderness every day. They were receiving manna fresh from heaven to eat every morning. They had seen Moses walk into the presence of God on Mount Sinai and bring back the law of God given directly to him for them. And they had stood on the edge of the promised land and seen the fruit that the promised land would produce. Even in the face of all that knowledge of God, they rebelled and refused to enter the land, and God punished them. In many ways, their actions were actually ones of obedience. They ate the manna. They followed Moses. To all the non-Jewish nations, they were truly the people of God. But God sees the heart, while man only sees the actions. As God tells the prophet Samuel in [1 Samuel 16:7](#), [For the Lord sees not as man sees: man looks on the outward appearance, but the Lord looks on the heart.](#) Truly Godly obedience comes from a pure heart. [Ezekiel 36:26](#) makes clear that a new heart, a pure heart comes only by a work of God. [26 And I will give you a new heart, and a new spirit I will put within you. And I will remove the heart of stone from your flesh and give you a heart of flesh.](#) And [2 Corinthians 5:17](#) tells us this new heart is part of a whole new life [17 Therefore, if anyone is in Christ, he is a new creation. The old has passed away; behold, the new has come.](#) This soft heart, this new heart, this obedient heart only comes through Jesus Christ. It is not ethnicity that makes us the people of God, but a relationship with God through faith in Jesus Christ. That faith in Christ brings a new heart.

But remember Hebrews has already introduced us to the truth that in Jesus we are part of a new family with Jesus as our brother. So the new heart we receive through Jesus Christ is meant to be lived with other people. Moses was not the one Israelite. The people of Israel together were the people of God. Clearly, it was a mixed people. Some were the true people of God, while many others were simply ethnically Israel. To some extent, the church is the same today. Our goal should be as much as we are able to to have the visible church reflect the true church, the true people of God. So, we hear a person's clear testimony of faith. We see a public profession of faith in baptism. We practice church discipline so that as a body we publicly say that a person's life does not give evidence of their words affirming their faith. Whether it is for unrepentant ongoing sin or absence from the body for an extended period so we are unable to see evidence of their faith, we try to give a clear testimony that those who are members of YIBC are true people of God. But it also means that **the second core mark of being the people of God, is that we persevere together in our faith.** That's what we see in verses 12-15. [12 Take care, brothers, lest there be in any of you an evil, unbelieving heart, leading you to fall away from the living God. 13 But exhort one another every day, as long as it is called "today," that none of you may be hardened by the deceitfulness of sin. 14 For we have come to share in Christ, if indeed we hold our original confidence firm to the end. 15 As it is said, "Today, if you hear his voice, do not harden your hearts as in the rebellion."](#) How do we keep our hearts pure and our faith strong? We do it together! ["exhort one another everyday, as long as it is called "today..."](#) The life of the people of God which is now identified by the church is one that is meant to be lived in community. This life will bring discouragement. It will bring temptation to not believe that God is at work or in charge. But every week when we gather, we come together to use the gifts of the Spirit given to each of us to serve each other in love. We do this to encourage or exhort each other to keep on going, and not give up no matter how hard the journey has been the past week.

The writer points out that sin can deceive us. It can deceive us into thinking that life would be easier to simply give into temptation, to do what everyone else is doing so that we do not stand out. Ultimately, at the core Satan is trying to get us to sin by convincing us that God is different than who he says he is. He first deceived Eve by asking the question in [Genesis 3:1-4](#) “Did God actually say, ‘You shall not eat of any tree in the garden?’” 2 And the woman said to the serpent, “We may eat of the fruit of the trees in the garden, 3 but God said, ‘You shall not eat of the fruit of the tree that is in the midst of the garden, neither shall you touch it, lest you die.’” 4 But the serpent said to the woman, “You will not surely die. The more we stay connected to the Body of Christ, the harder it is for Satan to deceive us. When we gather weekly to be refreshed through the reading of the Word, the praying of the Word, the Singing of the Word and the preaching of the Word of God, the more God’s Word saturates our lives. And the more we understand and obey that Word, it then protects us against sin. But even the application of the Word of God to our lives is to be done in community. [Ephesians 5:19](#) says that our singing of God’s Word is done to each other as well as to God. 19 [addressing one another in psalms and hymns and spiritual songs, singing and making melody to the Lord with your heart...](#) Why is this involvement in the Body of Christ, the church, so important? It is because as verse 14 says, **...we have come to share in Christ.** We are in Christ and Christ is in us through the Holy Spirit, and together we build up each other’s faith to keep going and not fall away from our faith in Christ.

That brings up a different point though that should be addressed. Can we **fall away from the living God?** Some have taken this passage and others like it to teach that you can lose your salvation. But we have to see it in context with what comes before and after. This falling away comes from an **unbelieving heart**. It is a lack of real faith. All through not only Hebrews, but the entire Bible, it is clear that what connects us to Christ and therefore to God, is faith. Just look again at verse 14. **For we have come to share in Christ, if indeed we hold our original confidence firm to the end.** It is that confidence or faith in Christ that connects us to him. The proof of real faith, though, is involvement in the community of Christ, not a decision to believe, that you think you made. Going back to what I said before, this is why we try to be diligent in ensuring that only those who are truly walking with Christ are members of the local church. The church is essentially telling the world, these people are Christians. When the church disciplines someone out of the church, we are removing our assertion that they are Christ’s. Ultimately, we do not know a person’s heart or their faith, but we should see evidence of it. One of those evidences is participation in the church. So, 1John says someone who rejects their faith as evidenced by rejecting the church shows they never had authentic faith. [1John 2:19](#) says, 19 [They went out from us, but they were not of us; for if they had been of us, they would have continued with us. But they went out, that it might become plain that they all are not of us.](#) But we must affirm that there is a tension where we must be mindful to guard our hearts against unbelief. Our salvation and place in Christ is guaranteed by God’s sovereignty in salvation, and affirmed by the church. But we are also told once again in verse 15, quoting [Psalm 95:7-8](#) 15 **As it is said, “Today, if you hear his voice, do not harden your hearts as in the rebellion.”** It’s not now I’m saved and can do anything I want because “once saved, always saved.” It’s a recognition that we need Christ and each other to continue to persevere in our faith, knowing that Christ will never let go of those who are truly his through faith. As Jesus says, in [John 6:37](#), [All that the Father gives me will come to me, and whoever comes to me I will never cast out.](#)

And what an incredible truth that is. It is where this passage today ends and next weeks passage takes us. **The final core mark of being God's people is rest, eternal and present Sabbath rest in Christ.** Read verses 16-19 of Hebrews 3 to wrap this up. **16 For who were those who heard and yet rebelled? Was it not all those who left Egypt led by Moses? 17 And with whom was he provoked for forty years? Was it not with those who sinned, whose bodies fell in the wilderness? 18 And to whom did he swear that they would not enter his rest, but to those who were disobedient? 19 So we see that they were unable to enter because of unbelief.** Once again using the example of the Israelites who rebelled in the wilderness, we see the connection between the lack of faith, unbelief, and disobedience. Next week, we will focus more closely on the idea of rest, but for now, we need to see that for the people of God, there is rest that God is leading towards. For the people of Israel it was a physical promised land described as flowing with milk and honey. It would be a permanent place for Israel to worship God and experience his blessing as they brought glory to him. This pictures the rest we find in Jesus Christ. Now, of course there is definitely a future aspect to this promised rest, which is pointing towards the ultimate rest in Heaven. But it also seems clear that there is a present sense of rest, a peace, we can experience in Jesus. The passage that we will be in next week includes Hebrews 4:3 that says, **For we who have believed enter that rest...** This is present tense, its not just a future hope; it's a present hope, and therefore a present rest. A constant state of anxiety is not how God intends the Christian to live. While many of course struggle with those feelings and emotions, there is real rest for those who follow Christ. Of course, we will face those things in our lives that will cause stress and anxiety, but with Christ, we can fully rest in him with a peace that passes all understanding. So **Philippians 4:7 says "the peace of God, which surpasses all understanding, will guard your hearts and your minds in Christ Jesus."**

But as we see over and over again in Hebrews, the key to being the people of God, the better people that Jesus creates is Jesus Christ himself. Without faith in Jesus Christ, there is no pure heart. Without faith in Jesus Christ, you may attend church, but you are not part OF the church, the Body of Christ. And without faith in Jesus Christ, you will never enter into his rest. And as verse 19 makes clear that rest, the church, and a clean heart are closed to you because of a lack of faith. And who is it that we called to believe in, to trust in? Jesus Christ! God wants us to **come to share in Christ...** (verse 14). We do that through faith also clear in verse 14 as it ends, **if indeed we hold our original confidence firm to the end.** The problem is that in our sin we continue to disobey God. You may say, I'm not disobeying God. As verse 18 makes clear when connected with verse 19, unbelief is disobedience. **18 And to whom did he swear that they would not enter his rest, but to those who were disobedient? 19 So we see that they were unable to enter because of unbelief.** Unbelief is disobedience. The longer you reject Jesus, the more you remain disobedient to God and outside of his family and his people. To those who know Jesus, this Word encourages you to remain faithful to the church. But for those who have not repented of their sin, and obeyed the gospel by believing in Jesus, the message is clear - turn to Christ. Repent of your sin and believe that Jesus died for your sin. Let's pray